

ほけんだより



令和6年度 学生定期健康診断結果～学部・学年によっては受診率40%台～

4月に行われた学生健康診断の結果について、主な統計結果をお知らせします。

最も改善が必要なのは受診率です。全学生の平均は、昨年度は67.6%でしたが、今年度は73.0%となりました。各学部とも共通しているのは、1年時の受診率の高さに比べ、2・3年時になると下がる傾向にあることです。また、学部・学年別にみると90%を超えるところがある一方、40%台にとどまるところもありました。今、学生である皆さんには、健康診断を受けなくともそれほど厳しく問われることはありません。しかし、社会人となり様々な会社や企業へ就職すれば、年に1回の健康診断は任意ではなく義務となります。青大生の皆さん、今年の健康診断は受診しましたか？

心電図～要医療（要精検）はすぐに受診を～

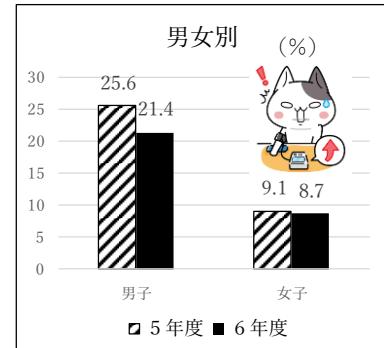
心電図の異常は、健康診断のなかでも一番見逃してはいけない項目です。今年度の有所見者は11.4%（受診者214人中25人）で、その中には、要医療（要精検）の判定もありました。今年度から保健室では、希望する学生に対して「定期健康診断結果通知書」と一緒に確認しながら、様々な相談を受けたり必要な場合には精密検査を勧めています。特に、要医療（要精検）と判定された場合は、授業や部・サークル活動、そして宿泊を伴う課外活動へ参加する際にどのような配慮や運動制限が必要なのか、早急に医師の診察と判定が必要です。

高血圧～肥満やストレスとの関連～

高血圧と判定された者を男女別に集計し、併せて昨年度と比較しました。男女とも昨年度に比べ低下、そして女子よりも男子の割合が高いことがわかります。また「高血圧かつ肥満傾向」と判定された者は、昨年度の39.2%から46.9%へ増加し、かなりの高率となりました。血圧はストレスや不安など精神的要因が強く影響します。健康診断で「高血圧」と判定されたり不安な時には、保健室でも血圧測定や相談ができます。

尿ウロビリノーゲン～肝機能の初期診断～

「尿ウロビリノーゲン」は肝機能の初期診断に用いられ、多すぎても少なすぎても異常が疑われます。陽性(+)は急性肝炎や肝硬変、陰性(-)は胆管結石等の危険性があります。今年度、特に危惧されるのは「2+」や「4+」などの高値陽性者があったことです。肝臓は「沈黙の臓器」と言われ、自覚症状がないままに病状がどんどん進行していきます。「精密検査なんてめんどうくさい」「大げさだ」と考えているかもしれません、かかりつけの病院（内科等）で、再度尿検査をすることから簡単に始められます。



ワンポイントアドバイス

まずは、**来年の健康診断は必ず受けましょう**。自分は健康なのか、何を改善すれば良いのかが、とても簡単にわかります。また、今年度、「要医療（要精検）」の判定を受けた学生は、冬季休業や春季休業を利用して、医療機関での精密検査をお勧めします。その際に、「どこの病院へ行ったらいいの？」「どんな検査をするの？」など、困っていることやわからないことは保健室へどうぞ。

場所：7号館1階 保健室 日時：月曜日から金曜日 9:00～16:00

